

【平成 17 年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	正規就業を目指す為の自己表現能力向上の短期教育プログラム開発		
学校法人名	学校法人 麻生塾		
学校名	麻生情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 麻生 泰	担当者・連絡先	広報部 課長代理 石橋 洋一 TEL : 092-415-2288

<事業の概要>

フリーター及びNEETへの正規就業を支援する教育として、自己表現能力の向上が重要であると考え、本事業では、参加専修学校の各地域でのフリーター及びNEETの生活実態を調査すると共に、この自己表現能力の向上を目指す短期教育プログラムを開発し、実証研修を実施すると共に実際に正規就業の支援を行った。

<成 果>

本事業活動は平成 17 年 7 月 15 日の委託事業説明会を経て、第 1 回実施委員会を平成 17 年 8 月 11 日に開催し、その後、第 8 回委員会までの委員会活動を通し、平成 18 年 2 月 27 日～28 日の全国専門学校情報教育協会主催の合同成果発表会において活動成果の発表を行い完了した。

具体的な成果としては、以下の項目に従って報告する。

- 1、実施委員会の構成
- 2、委員会活動
- 3、実態調査活動
- 4、制作した成果物
- 5、実証研修会報告
- 6、成果発表会報告
- 7、総括

【1、実施委員会の構成】

実施委員会は専門学校関係者 5 名、産業界 5 名、有識者 1 名の以下の委員で構成し、実施委員会の下に 3 つの委員会を設置し、実質的な活動は設置した 3 つの委員会での活動とした。

設置委員会は、実態調査委員会、プログラム開発委員会、実証研修委員会の 3 委員会であり、委員会の会合に関しては、極力、効率性を考え、実質的な討議検討は 3 委員会の合同委員会で開催した。

氏 名	所 属 ・ 職 名	役 割
石橋 洋一	麻生情報ビジネス専門学校	実施委員長 兼 運営委員長
佐藤 公一	東北電子専門学校	実態調査担当
桂川 豊	コンピュータ日本学院	実態調査担当
船山 世界	日本電子専門学校	プログラム開発担当
根岸 雅巳	名古屋工学院専門学校	プログラム開発担当
柴田 健二	麻生教育サービス株式会社	実証研修委員長
マリア・ニーナ・タッカー	株式会社 NBT-PRO	実施研修担当 (CBT 分野)
沖田 敏治	株式会社アイスリーラボ	プログラム開発委員長
横澤 盛男	有限会社ビーアイピー	実証研修担当 (キャリアコンサルタント)
宇野 和彦	日本パーソナルコンピュータフウェア協会	実態調査調査委員長
斎藤 光範	九州産業大学	事業実施全体顧問

【2、委員会活動】

委員会活動は全8回を実施した。

各委員会の実施日程、実施場所、参加委員、主要議案等については以下の通りである。

日程 & 会議名	出席委員名（敬称省略）及び主要議題
H17年8月11日 第1回委員会（実施委員会） 福岡市 麻生教育サービス	石橋、柴田、沖田、佐藤、横澤、宇野、根岸、谷内（代） ＜委員紹介及び事業計画とスケジュール説明＞ 1、各委員の自己紹介 2、事業計画の説明と今後の進め方 3、事業実施の規約について
H17年9月15日 第2回委員会（企画委員会） 東京都 東京八重洲ホール	石橋、柴田、沖田、横澤、宇野、タッカー ＜企画委員による役割分担と事業のたたき台作成＞ 1、フリータ及びNEETの実態調査 2、自己表現能力向上の為の短期教育プログラム 3、事業の全体構想について
H17年9月30日 第3回委員会（合同委員会） 東京都 東京八重洲ホール	石橋、柴田、沖田、桂川、根岸、船山、横澤、宇野、タッカー ＜事業活動及び開発成果内容の確認と承認＞ 1、事業の全体構想について 2、フリータ及びNEETの実態調査 3、自己表現能力向上の為の短期教育プログラム
H17年11月11日 第4回委員会（実施委員会） 福岡市 麻生教育サービス	石橋、柴田、沖田、佐藤、桂川、船山、横澤、宇野、タッカー、 斎藤、 ＜各分野ごとの活動内容についての中間報告＞ 1、麻生塾セミナーの実施について 2、仙台ジョブカフェ実態調査報告 3、今後の実態調査について 4、自己表現能力向上の為の短期教育プログラム 5、成果発表会の合同実施について
H17年12月21日 第5回委員会（合同委員会） 東京都 東京八重洲ホール	石橋、柴田、沖田、佐藤、桂川、根岸、横澤、宇野、タッカー ＜委員会活動の状況報告（実態調査）＞ 1、これまでの事業活動実施の経過報告 2、実態調査報告書についての内容審議 3、今後のスケジュールについての検討と承認
H18年1月20日 第6回委員会（合同委員会） 東京都 東京八重洲ホール	石橋、柴田、沖田、桂川、根岸、船山、横澤、宇野、タッカー 斎藤 ＜委員会活動の状況報告（自己表現能力向上テキスト）＞ 1、これまでの事業活動実施の経過報告 2、自己表現能力向上テキストについての内容審議 3、今後のスケジュールについての検討と承認
H18年2月16日～17日 第7回委員会（合同委員会） 福岡市 麻生教育サービス	石橋、柴田、沖田、佐藤、桂川、横澤、宇野、タッカー、斎藤 ＜委員会活動の状況報告（実証研修会／成果発表会）＞ 1、これまでの事業活動実施の経過報告 2、実証研修会の全体会参加 3、今後のスケジュールについての検討と承認
H18年2月27日～28日 第8回委員会（実施委員会） 東京都 NBT-PRO	石橋、柴田、沖田、桂川、根岸、船山、横澤、宇野、タッカー 斎藤 ＜委員会活動の状況報告（成果発表会準備／報告書まとめ）＞ 1、これまでの事業活動実施の経過報告 2、成果発表会の直前準備 3、事業活動報告書のまとめについて

【3、実態調査活動】

本事業では、フリーター及びNEETの実態調査を、福岡、東京、仙台、名古屋の地域において実施した。

それぞれの地域において、協力専門学校の在校生及び卒業生を対象にした実態調査と、ジョブカフェや企業へのヒアリング調査を実施した。

実態調査の実施日程、実施場所、実施内容等については以下の通りである。

日程及び調査地	出席委員名（敬称省略）及び主要内容
H17年11月7日 第1回 実態調査 仙台市 みやぎジョブカフェ	石橋、沖田、宇野、 ＜みやぎジョブカフェでのヒアリング＞ 1、みやぎジョブカフェの紹介 2、訪問者プロフィールについて 3、相談内容に関して 4、みやぎジョブカフェの特徴（インターンシップ制度） 5、就職支援実績について 6、ジョブカフェの広報活動について 7、相談者に必要な教育訓練とは 8、NEETの実態把握について
H17年11月11日 第2回 実態調査 福岡市 麻生情報ビジネス専門学校	石橋、柴田、沖田、佐藤、桂川、船山、横澤、宇野、タッカー、斎藤、 ＜卒業生で未就業者へのヒアリング＞ 1、現在の生活状況 2、過去の就職履歴 3、現在の問題点 4、コンサルタントの感想
H17年11月18日 第3回 実態調査 名古屋市 リクルート	石橋、沖田、宇野 ＜名古屋市リクルートでのヒアリング＞ 1、リクルートの就職支援活動について 2、リクルートの考えるフリーターとは 3、『もういちど学校の行こう』の編集者へのヒアリング
H17年12月7日～8日 第4回 実態調査 東京都／仙台市 日本電子専門学校 東北電子専門学校 みやぎジョブカフェ	石橋、沖田、横澤、宇野、船山、佐藤 ＜日本電子専門学校在校生へのヒアリング＞ ＜東北電子専門学校在校生へのヒアリング＞ 1、学校を卒業しフリーであった時期についてのヒアリング 2、専門学校に在籍している今の時期についてのヒアリング 3、その他の経緯についてのヒアリング 4、面談者の所感 ＜みやぎジョブカフェでのヒアリング＞ 1、どんな相談者 2、相談者の特徴は 3、相談の回数等は 4、相談方法は

【4、制作した成果物】

本事業活動では以下の3点の成果物を制作した。

(1) 調査報告書

<目的>

本事業の目的は、現在の大きな社会問題となりつつあるフリーターやNEETの対策として、彼らの正規就業を支援する為の有効的な実施カリキュラムを開発することであり、そのためにフリーターおよびNEETと呼ばれる若者の考え方や日常生活を探る実態調査を行い、その調査結果に応じた就業支援のための短期教育プログラムや就業支援のためのイベントの実施など、一連の対策プログラムを開発し実証研修を実施することである。

<内容>

- 第1章 : はじめに
- 第2章 : 活動の目的
- 第3章 : 調査活動の方向性
- 第4章 : 対象者分析の必要性
- 第5章 : 対象者とは (フリーターとNEET)
- 第6章 : 対象者へのアプローチ方法について
- 第7章 : 社会情勢の把握
- 第8章 : 身近なフリーターとNEETへのアプローチ
- 第9章 : フリーターへのアプローチを試みるグループ
- 第10章 : フリーターへの就職を支援する施策とは
- 第11章 : 活動総括

(2) 自己表現能力向上テキスト

<目的>

本事業の目的として、フリーターやNEETと呼ばれる若者に対して正規就業を支援する有用な教育プログラムを制作することにあるが、テクニカルな内容より以前に、ヒューマンスキルの充実の方が有用であると判断し、以下の内容の『自己表現能力向上テキスト』を制作した。

<内容>

教育プログラムの内容は以下の3部から構成されている。

第1部 : コミュニケーション能力

コミュニケーションとその目的	いろいろなコミュニケーション
求められるコミュニケーション能力	耳を傾けよう
聞くときの心構え	効果的な反応 (相槌) の仕方
聞き上手になるために	聞いたことを整理しよう
聞いたことをまとめよう	話すときの心構え
効果的な話し方	分かりやすく話すために
相手に応じた話し方	よりよい人間関係を作るために
よりよい情報伝達	自分の意見を分かりやすく伝えよう

第2部 : 職業人意識

働く形態が変わってきた	社会人とフリーターの違い
仕事とやりがい、自己成長	仕事と将来
仕事に関する法律	社会人になるということ
企業に求められる人材	企業の基本ルール
社会人としての基本姿勢	社会人としての自覚と意識
企業と社員の役割	仕事の内容、指示の受け方
組織のコミュニケーション (報告、連絡、相談)	担当業務と業務遂行
状況対応力と問題解決力	優先順位を決めよう
計画的な仕事の進め方 (PDAC)	目標を設定しよう
目標を達成するために	人脈を広げよう
スキルアップしよう	

第3部：ビジネスマナー

あいさつの基本	場面に応じたあいさつ
話すときの基本姿勢	ビジネス上の言葉使い
クッション言葉	職場でよく使う表現
電話で「会社の声の窓口になろう」	電話対応の流れ
電話の受け方と取り次ぎ方	電話のかけ方
訪問するときのマナー	訪問の準備
訪問先でのマナー	応接スペースでのマナー
名刺交換の仕方	面談の仕方
訪問した後に	来客を迎える準備
取り次ぐときのマナー	社内への案内の仕方
応接スペースへの案内の仕方	面談の進め方
見送るときのマナー	

(3) 実証研修会報告書

<目的>

実証研修会の目的は、事業実施によって開発された成果物を使って実際に制作した成果物の有用性を検証するものであるが、制作した成果物は6ヶ月程度の研修期間を想定しており、この実証研修では、その内容の一部をダイジェスト版として実施したものである。

実証研修会報告書は、この実証研修の内容を以下に報告書としてまとめた。

<内容>

第1部 実証研修報告書

- I. 自己表現能力養成について
- II. 実証研修のフロー
- III. 実証研修における自己表現能力養成の考え方
- IV. 実証研修日程表
- V. 実施概要
- VI. 実証研修での有用性の検証方法
- VII. 実施内容の明細
- VIII. まとめ

第2部 演習用テキスト

- I. 実証研修のフロー
- II. 実証研修週間計画
- III. 自己表現能力を育成する
- IV. 参考データおよびワークシート

第3部 個人別演習用ワークシート

【5、実証研修会報告】

実証研修会は以下の要領において実施した。

- (1) 開催の日程 : 平成18年2月13日～17日の5日間
- (2) 開催の会場 : 福岡市 麻生教育サービス研修会場
- (3) 開催の参加 : 受講生数は12名の参加
- (4) 開催の内容 :
 - 1日目 (AM) オリエンテーション 評価テスト 自己PRのポイント 自己紹介文 自己紹介
 - 1日目 (PM) ビジネスマナー講義
 - 2日目 (AM) コミュニケーション能力講義
 - 2日目 (PM) コミュニケーション能力講義
 - 3日目 (AM) 職業人意識講義
 - 3日目 (PM) フリーディスカッション 職業人意識小テスト
 - 4日目 (AM) 自己分析演習
 - 4日目 (PM) 自己表現トレーニング
 - 5日目 (AM) 模擬面接演習 評価テスト
 - 5日目 (PM) 研修まとめ発表

(5) 実証研修会の発表

実証研修会の発表については、平成 18 年 2 月 17 日の午後から、実施委員へのプレゼンテーションという形で実施した。

プレゼンテーションは受講者が事前に PowerPoint により発表資料を作成し、1 人ずつ 5 分～10 分程度の発表を行い、その後、実施委員からの質問に答えるという方式を取った。

発表の内容については、実証研修初日の自己紹介から比べると特段の向上がみられ、受講者自身においても、どのような発表をすれば効果的であるかのポイントがつかめてきており、十分な効果があったものと思われる。

実施委員間での意見交換においても、若者への適切な対応をすれば、効果が上がることへの手ごたえをつかめたという意見が多かった。

【6、成果発表会報告】

成果発表会については、全国専門学校情報教育協会主催による合同成果発表会への参加により、以下の要領にて東京にて実施した。単独での成果発表会に比べ、本事業に関心を持った多くの教育機関が集まることにより、事業の活動成果をより多くの教育関係者に告知する事が出来、効果的であると思われた。

- (1) 成果発表会の開催日程 : 平成 18 年 2 月 28 日 (火)
- (2) 成果発表会の開催場所 : 東京 中野サンプラザ
- (3) 成果発表会の実施内容 : 以下のプログラム
 - ア、委員長による事業概要説明
 - イ、フリーター及び NEET の実態調査報告
 - ウ、自己表現能力向上テキストの開発報告
 - エ、実証研修の実施報告

【7、総括】

今回の事業活動を行うに際して、もっとも懸念したのが対象者とのコンタクト方法を探し出すことであったが、みやぎジョブカフェや名古屋リクルートでのヒアリングを行い委員間での議論を重ねていく中で NEET の状態から動き出した若者はどこにいるのだろうかを考えると、比較的身近にその若者がいることが判った。つまり、専門学校の生徒の中で最終学校を卒業後、専門学校に入るまでに時間的空白がある学生は、きっとフリーターか NEET 的生活を送っていたが、就職への必要性を感じて動き出した元フリーターもしくは元 NEET ではないかとの仮説を立てることになった。実際、面談した場合 NEET ではないがフリーター的生活をしていた実績が把握できた。

元フリーター及び元 NEET と考えて対象者との面談を行ったが、結果からすると面談者のコンサルタントは口を揃えて、「彼らはフリーターや NEET ではない」と断言する。つまり、一時的に就職の現場から離れていても、自分が夢を持っていたり、生きがいを見つけている場合、就職への道を再び歩き出した若者は現在就職している若者以上に就職に対して強い意識を持っているような感じを受けた。一般的にフリーターに対して蔑視されるケースがままあるが、実際にはフリーターを社会が必要としているし、また夢は必ずしも簡単には実現しないので、実現のための助走路としてフリーターをしている若者に対して蔑視をすべきではないと感じた。

現在、フリーターや NEET と呼ばれている若者が、全てが就職に消極的であるのではなく、どのようにすれば正規の就業につけるのか、その為にはどのような勉強をすればよいのか、今の生活をどのように変えればよいのか、などが判らないだけではないだろうか。少子化が問題視されている 2007 年には団塊の世代の定年が始まり、働く人口が今後減少傾向にある。その中で一番期待したい若者が 300 万人も定職についていない事実を突きつけられると、社会生活の先輩として、何らかの手助けが必要であると考えられる。

そのひとつとして、今回実施した事業活動が参考となり、今後、フリーターや NEET と呼ばれる若者が一人でも多く、自分の将来の夢を持ち自立していくことを期待するものであり、その一助になることを願って、今回の事業活動の総括とする。